

[質問]

LHです。早速ながら、質問に入ります。確か先生の論文（タイトルは忘れましたが）の中には、南京大虐殺で殺された中国人は6万人であったという記憶はありますが、僕の知っている限りでは、たとえば2007年の日本のある雑誌では、当時南京に進出していた老兵たちの会談という記事があって、その記事によれば、南京城内では銃の音さえ聞こえなかったとかという風な記述があったり、ドキュメンタリー『靖国』（監督は日本在住で中国人の李嬰である）の中にも、所謂毎日新聞にでっち上げられた「百人切り」の向井敏明氏の娘さんが、靖国神社の前で、ご主人さんにあたる人と一緒に、「南京大虐殺は中共のでっちあげだ。父は人を殺していません。にもかかわらず、殺人容疑で中国で死刑判決を言い渡され、処刑されました。いまでも家族が大変苦しんでいます」という憤慨をこめていたるシーンも今も印象深い。

それから、桜井よしこ氏が曰く、「そもそも幻だった」、また、日本に帰化している元中国国籍の石平氏もチャイナウォッチ（1月14日）では、「所謂南京大虐殺はそもそもウソだが」という風にはっきりいっている、などのようなものがあるくらいです。もちろん、そのほかにも、いろいろそれについての論説だったりするものがあるわけですが、それより、では、どっちのほうが本当なんですか。それが知りたいので、ぜひ教えてください。

[回答]

「6万人」と書いたのは、『日本の文化ナショナリズム』（中国語版あり）のなかです。「当時の日本側の新聞報道によれば」（アジア歴史センター公開。ネットで見られます）と断つてはまずまずです。少したつと「8万人」という数字も出てきます。

それが、日本陸軍の宣伝で「30万人」という数字になりました。この経緯は、誰にも否定できません。

現在、中国側（たとえば南京にある事件の記念館。最近、名前が変わりました）は「30万人」としていますが、その数字は、事件前の空爆の犠牲者から数えていますし、捕虜として「処刑」され、また収容所で虐待されて亡くなった人、事件後に亡くなった方がたも含めたものです。

「南京大虐殺事件」の範囲をどこまでとするかによって、数字はちがってきます。今後、どんなに調査を重ねても「南京虐殺事件」そのものの犠牲者数は正確にはわからないと思います。

もちろん、当時の日本側の新聞記事も、そのまま信用してよいというわけではありませんが、多くの民間人が殺されたこと、事件があったことそのものは、否定のしようがありません。「殺戮した」「無残な殺戮を見た」という証言もたくさんあります。関連する写真も様ざまに残っており、まだ公開されていないものもあると思います。

これまでの日本の論者も、記事の「見出し」ではなく、内容では、民間人の「虐殺」そのものがなかったと主張している人は、そう多くはいません。その意味での「情報戦」は、いまでも続いているわけです。

この事件に関してだけでなく、飛び交っている「情報」の、どこまでが「事実」として認められ、どこからが人の「解釈」や「意見」なのか、そして、その「根拠」は何かということ、絶えず検証してゆく態度が研究者には要求されると思います。

ご質問に関しては、そんなところですが、これでよいでしょうか。